

第4回学校運営協議会の記録

日時	平成30年12月10日（月）10:00～12:00	場所	祇園小会議室
出席者	熊田会長、鹿倉副会長、羽入委員、浅和委員、石川委員、服部委員、 上野地域学校協働活動推進員、谷田部校長、膝附教頭、中川教務主任（記録）		
配付資料	・平成30年度学校評価の結果（児童アンケート・保護者アンケート・教職員による自己評価）		

【司会：熊田会長】

1 これまでの取組の成果と課題、今後の活動について

(1) スクールガードについて（服部）

- ・「コスモス広場」は、ほぼ毎日立ってくださっている。今後の、「可能な日で…」のスタンスでやりたい。

(2) キンボール・ソフトバレーボールについて（浅和）

- ・10月26日（金）6年親子レク 95名参加。楽しくできた。
- ・11月 8日（木）キンボールクラブ 力がついてきている。
- ・11月29日（木）キンボールクラブ スポーツ振興課に確認しておいたルールについて説明した。
- ・12月13日（木）キンボールクラブ 最終練習。あとは2月16日（土）の大会

(3) 南河二中学区合同クリーン活動について

（熊田）委員の皆様も参加していただき、ありがとうございました。

（羽入）小学生が中学生にくっついてやっていて微笑ましかった。6年生で、文句一つ言わずに、同じ作業を根気強く繰り返している子がいて、感心した。中学生が小学生の面倒を見ている姿も見られて、参加してよかった。近所の人にも見ていただきたかった。私たちが声をかけて、参加者を増やしたい。

（鹿倉）年下の子が年上の子を慕うというのは、中学生にとっても影響が大きい。年下の子をやる気にさせながら、目を離さずにやっていた。楽しそうにやっていた、よい時間だった。

（石川）中学生と小学生との関わりが微笑ましかったので、敢えて「地域」を謳わなくても、小中の交流の場に絞ってもよいのではないかと。地域の人の参加が少なかったせいもあるが。

（服部）小中合同はこれまでもやっていたので、そこに「地域」を巻き込めないかと考えた。今回参加してくださったのは、直接声をかけた人ばかりだったが、機会を重ねていけば、広がっていくのではないと思う。回覧板で呼びかけるだけでは集まらないのか？自分たちの地域なのだという意識を高めたい。

（谷田部）まだ一回目。いきなり1人では参加しにくい。しかし、事前に落ち葉を集めておいてくださった方や、作業中、「ありがとう」と声をかけてくださった方がいた。続けていくと、参加者は増えると思う。

（上野）緑小学区と合わせると20人くらいの地域の方が参加してくださったと思う。「チラシを見て来た」とおっしゃる方がいた。「クリーン活動をやっているのは知っていたが、参加してよいものか分からなかった。今回はチラシの回覧があったので来やすかった。」と。チラシの回覧が参加のきっかけになっていた。

（熊田）二中生も、中学生だけでやった作業のときより、よく働いていた。今回は、美化

委員会が、小学生との関わり方について寸劇でシミュレーションしていたようだ。

(石川) 情報センターで活動している人にピンポイントで呼びかけてもよいかも。

(上野) 今回の活動は1月の市広報誌に載る。ケーブルテレビも取材に来ていた。

(谷田部) ケーブルテレビでは、小中の連携が中心の内容であったが、インタビューを受けていた中学生が、地域に貢献できた喜びを語っていた。

(熊田) チラシの回覧のルートがなく、今回は学校にお願いしたが、他市のように、市役所等に行けば回覧できるようなシステムがあるとよい。市全体ではできるが、中学校区ごとでは難しいとのことであった。

(4) 祇園小祭について (服部)

自由参加だった。保護者や児童アンケートをとり、次年度に生かしたい。低学年の方が参加率は高く、楽しかったという回答が多かった。高学年ではボランティアに参加していた児童が楽しかったと回答していた。夏休みの作品展をやってほしいとの意見もあった。見に来るだけの人もいるので、学校の取組が分かるような掲示があるとよいかも。

(石川) 他の小学校では、土曜日に開催して、地域ボランティアの協力を得て、琴や武術の体験をさせているようだ。

(4) ギオンジャーの活動報告について (羽入)

持久走大会の安全ボランティアでは、車で通行する方に協力していただくのにプラカードは有効であった。皆さん、徐行してくださり、協力的であった。終了後、会議室で意見交換できたのはよかった。

2 学校評価の結果について

(1) 教職員による自己評価、保護者アンケート・児童アンケート結果の概略を説明 (教頭)

(2) 委員からの意見

(石川) 児童・保護者アンケート共に「先生は、やってはいけないこと、やるべきこと、人として大切なことを教えてくれる」が高いが、これは本来家庭教育でやることでは？

(羽入) 学校外での危険な行動も、「学校で教わらないの？」と言ってしまう大人。何でも学校に頼りすぎではないか？

(服部) 親としての資質も問われる。

(羽入) ある会社では、昔は新入社員に文書の書き方を教えたが、今は、挨拶から教えなければならないと言っていた。

(服部) スマホで何でも済ませてしまう時代。親たちもコミュニケーションが苦手なのかもしれない。家庭でなされるべきことができているので、学校で指導してほしいということになり、先生達の負担が増える。

(熊田) 「地域も見ているよ」というサインを出すことが、家庭の手助けにもなる。

(谷田部) 社会の中で生きてく力は、人との関わりを通して身につく。学校でも指導するが、家庭の中でも努めてコミュニケーションをとっていただく。できなければ、会社で鍛えればいい。今は、家庭に固定電話がないから、電話の取り次ぎを家庭で経験できない子どももいる。しかし、祇園小の子どもは、大人に対して敬語を使える。きちんとしつけている家庭が多いと感じている。

(上野) 「これは学校」「これは家庭」という線引きは難しい。しかし大人が子どもに望むことは皆同じ。家庭でもやっていただくように、場面を示して呼びかけるとよい。学校などの集団生活の中では、他の子がやっているのを見て学ぶ良さもある。

(鹿倉) ある子がほめられるのを見て「自分もあのようにになりたい」と行動を変えることもある。スマホは便利だが、人とどうコミュニケーションをとるか、これからの親にとっての課題だと思う。

- (膝附)「先生は、頑張ったことやよくできたことをほめてくれる」も高い。
- (熊田) 子どもは、親からほめられるより、先生にほめられると嬉しいようだ。
教職員の自己評価では、キャリア教育が比較的低いとのことであったが、中学校では職場体験をしているので、小学校では地域の方から話を聞くなど、小中連携のもとに役割分担をしてはどうか？
「明るい職場環境」が高いのもよかった。仕事をしていて一番堪えるのは人間関係。しかし、「心身の健康維持のために勤務時間やメンタルヘルスでの留意」が低い。今、どの学校でも課題にはなっているが。
家庭読書について、児童のアンケート結果と保護者のものとの乖離が気になる。子どもは、家庭で忙しい？それとも、「たくさん読む」への親の基準が高い？
- (服部) ゲームをやる時間があるので、読書への意識が低いのだと思う。
- (羽入) 子どもの頃、本が嫌いだったが、面白いと思える本と出会って変わった。
- (熊田) 子どもの目につくところに本を置いておくとか、背表紙を見せるとかしている。下の子に読み聞かせしているのを、上の子が聞いていることがある。
- (膝附) 5年生の宿泊学習で、集合場所を「海の図書館」としたところ、静かに読書して待っていた。

3 その他

○先生達の長時間労働について（浅和）

校長が元気、先生が元気だと、子どもも元気になる。小学校の6年間で人としての基礎が作られる。その間、先生達には余裕をもってじっくりと子どもたちを育ててほしい。何でも先生がやるのではなく、外部の力を借りて、時間的余裕をつくって、仕事を早く済ませて帰れるようになってほしい。先生が余裕をもって仕事をすることで育つ。それは、子どもの教育に生きてくると思う。

(谷田部) 祇園小では、まず水曜日以外に入っていた会議や研修を減らしたり、終了時刻を設定したりして、自分の仕事をする時間を増やした。夏休み中に研修を集中的に行った。水曜日は遅くとも18:30には帰るよう呼びかけた。

(膝附) 校務支援システムを連絡やアンケートで活用している。その他に、職員室内に掲示板を作り、緊急の連絡に対応している。

(上野) 終わりのない仕事。終了時刻を守ることで、達成目標を見て取り組むのはよい。

(熊田) 早く帰るのは「手抜き」ではない。元気に仕事をするのに必要な時間と考えることが大事だと思う。学校に留守電話を入れている市がある。企業でも進んでいる。

★次回は、2月5日（火）10:00~13:00

